国立がん研究センター
中央病院
National Cancer Center Hospital

2025年度 レジデント募集要項

INDEX

2 沿革／設立の目的とその使命
4 理事長ごあいさつ
5 病院長ごあいさつ
6 国立がん研究センター中央病院の人材育成
7 データで見る中央病院
8 研修に関連する情報
10 新専門医制度・施設認定
12 連携大学院制度
14 Physician Scientist制度
16 研修制度概要
19 研修に関連するQ&A
20 研修課程・診療科紹介
97 がん専門修練医からのメッセージ
99 レジデントからのメッセージ
102 専攻医からのメッセージ
104 がん専門修練医募集要項
106 レジデント募集要項
108 レジデント（短期コース）募集要項
110 専攻医（基幹施設型・連携施設型）募集要項
112 採用試験日程
113 交通案内

history

設立の目的とその使命

戦後、日本人の疾病構造が変化し、「がん」による死亡が増加し、その傾向はさらに強まることが予測されたため、国として、国民の医療・保健対策上の見地から、がん対策の中核として総合的な「がんセンター」の必要性が強く認識されました。そこで、1960年、当時の日本医学会会長、田宮猛雄氏ら９名の学識経験者からなる国立がんセンター設立準備委員会が発足し、「国立がんセンター」のあり方、将来構想など重要事項について検討し、厚生大臣宛に意見具申書を提出しました。それに従って、1962年２月１日、「国立がんセンター」が正式に発足しました。その目的は、東京に理想的ながんセンターを設立して全国的ながん施策の中枢にすることでした。

その後、1992年に千葉県柏市に国立がんセンター東病院が設立され、1994年には、東病院に隣接して研究所支所、2004年には、がん予防・検診研究センターが築地キャンパスに設立され、翌2005年には柏キャンパスの東病院の中に研究所支所の組織を改め臨床開発センターが活動を開始しました。さらに2006年10月には築地キャンパスにがん対策情報センターが設立され、より一層施設の拡張と充実がなされ、病院、研究所が一体となって予防、診療、研究、研修、情報収集・発信の分野において、我が国のがん施策の中心的な役割を果たして来ました。国立がん研究センター（2010年４月１日、独立行政法人化により名称変更）は、我が国のみならず、世界的ながん対策の中核的な施設として、人類の悲願である「がん克服」に向けて、全力で取り組んでおります。（2015年４月１日、 国立研究開発法人国立がん研究センターに名称変更）

設立時の建物

外来診療棟竣工（1978年）

研究棟竣工（1981年）

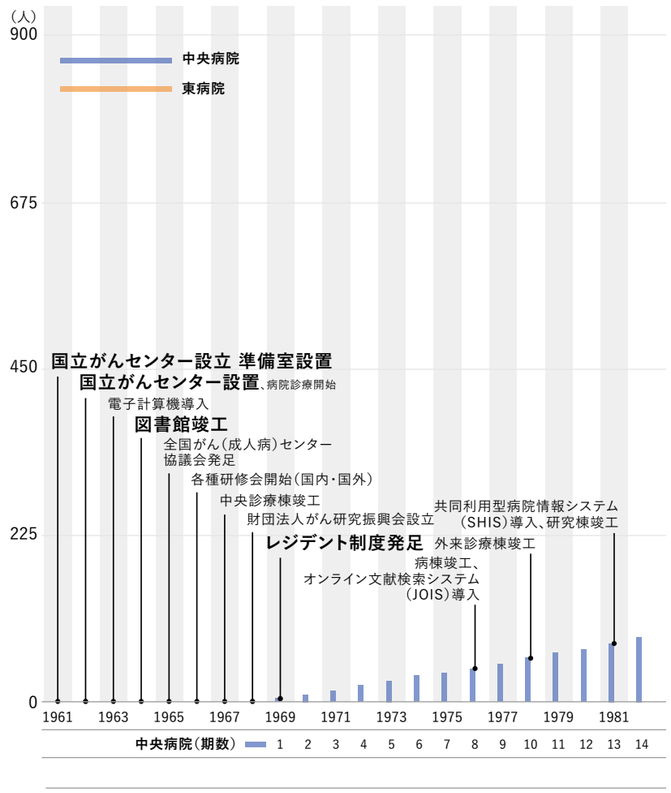
東病院と次世代外科・内視鏡治療開発センター

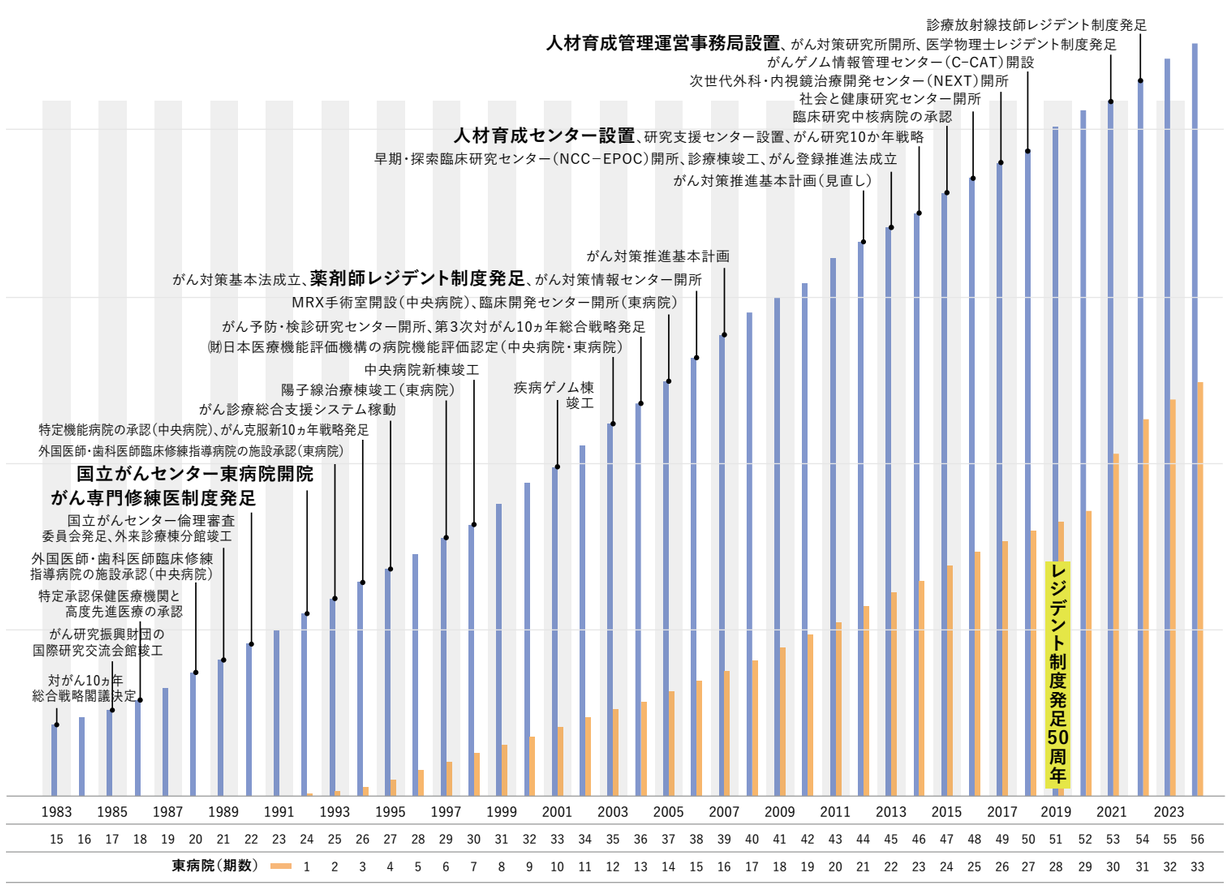
中央病院新棟竣工（1998年）

研究棟新棟竣工（2017年）

癌の文字から疒（ヤマイダレ）を取り除き品とし、これを図案化したものです。（1970年制定）
国立がん研究センターのシンボルマークの３つの輪は、(1) 診療 (2) 研究 (3) 教育 をあらわしています。
外側の大きな輪は患者・社会との協働を意味します（2014年）。

レジデント制度50年のあゆみ





社会と協働し、全ての国民に最適ながん医療を提供する
～日本のがん医療を牽引する国立がん研究センターのレジデント制度にご期待下さい～

Novel, Challenge and Change
All Activities for Cancer Patients

ごあいさつ

国立がん研究センターは、1962年に東京築地に創設されました。以来、60年以上にわたり、わが国のがん医療の中核機関として日本のがん医療とがん研究を牽引する役割を担い続けています。

東京の築地キャンパスでは、がんの画期的な診断・治療法を実現してきた「中央病院」、がんの基礎研究に革新的な成果を挙げてきた「研究所」、がんの予防・早期発見の開発に加えて、政策提言および最新のエビデンスの迅速な普及と実装を担う「がん対策研究所」が一体となって、アカデミックセンターを形成しています。千葉県の柏キャンパスには「東病院」があり、陽子線治療棟、緩和ケア病棟などに加え、2017年5月には次世代外科・内視鏡治療開発センター（NEXT）が開設されました。中央・東両病院ともに特定機能病院として、高度な医療・医療技術の開発や研修機能が期待されています。また、築地・柏両キャンパスの病院と連携して最先端の開発研究を推進する「先端医療開発センター（EPOC）」、基礎研究と臨床現場からのシーズを臨床開発へと展開する「橋渡し研究推進センター（CPOT）」も併設されています。築地・柏両キャンパスでは、個々の患者さんに最適化された医療を提供するPrecision Medicine（最適医療）を実現するために、ゲノム医療の実装に向けた体制構築にも精力的に取り組んでおり、2018年には築地・柏両キャンパスの病院が、がんゲノム医療中核拠点病院に指定され、がんゲノム情報管理センター（C-CAT）も設立されました。

教育・研修に関しても様々な取り組みを進めています。東京大学、慶應義塾大学、順天堂大学、東京慈恵会医科大学、長崎大学等との連携大学院制度を取り入れ、リサーチマインドを持ち、幅広い知見を備えた臨床医の育成を目指しています。中央病院・東病院それぞれに人材育成センターが設置されており、臨床と基礎および開発研究の双方向の連携を強化するPhysician　Scientist制度も導入し、若手の医師・研究者の育成体制を一層強化しています。国立がん研究センターは、将来の日本のがん医療・がん研究を担う人材を育成するための組織として常に進化し続けています。

レジデント制度は、体系的にがん医療を学び、がん専門医を養成する制度として1969年に創設され、1990年からは高度専門的な研修を行うがん専門修練医制度も取り入れてきました。国立がん研究センターレジデント制度開始から50 年以上が経った現在、次の50 年を見据えて教育施設としての機能に磨きをかけ、これまで以上に多くのがん診療、研究に携わる方のキャリアアップや個々の能力を引き出すための人材育成に貢献し、がん医療の向上を目指したいと考えています。

本募集要項を手にされている皆様は、私たちと同じ目標に向かい、同じ道を歩もうとされているのだと思います。がん患者さんに最適な医療を提供するために貢献されたいという皆様の思いに、センターが一丸となって応えて行きたいと考えています。がんを克服するために世界最高の技術と知識を身につけたいと努力する者が互いに協働することにより、より大きな力となり、がん克服という目標に更に近くことが可能になると信じています。皆様の第一歩が、明日のがん医療・がん研究における大きな一歩となりますよう共に歩めることを心より願っています。

最高の診療・研究環境、そして教育病院としての経験を兼ね備えた国立がん研究センターで、リサーチマインドを兼ね備えたがん医療の専門家としての、確かな一歩を踏み出してください。

国立がん研究センター 理事長
中釜　斉

国内外をけん引する高度ながん診療・研究の修練を目指す皆様へ

Novel, Challenge and Change
All Activities for Cancer Patients

ごあいさつ

国立がん研究センター中央病院は、国立がん研究センターの一員として1962年の開設以来“社会と共同して、全ての国民に最適な医療を提供する”という理念のもと、がん診療・研究のリーディング・ホスピタルとしての役割を果たしてきました。質の高い、ハイボリュームな診療・研究を提供しており、世界的にも高く評価されています。

高度のがん医療の研修を、効率よく有効に行うためのレジデント制度は、体系的にがん医療を学びがんの専門医を養成する制度として1969 年に発足し、50年をこえる歴史ある制度です。この間に、より高度で専門的ながん教育を提供し、研究もできるがん専門医を育成する目的で、1990年にがん専門修練医制度（チーフレジデント）が発足しました。更に2006年に薬剤師レジデント制度、2021年、医学物理士レジデント制度、2022年、診療放射線技師レジデント制度が開始されました。がんに関連する専門医の取得はもちろんのこと、慶應義塾大学、埼玉医科大学、順天堂大学、東京慈恵会医科大学、長崎大学などとの連携大学院制度もあり、レジデントやがん専門修練医在籍中に学位を取得することも可能です。

中央病院では、より効果があり、かつ安全な薬剤の開発のため、医師主導治験を含め多くの治験、特定臨床研究を行っています。また内視鏡手術や先進的なロボット手術に加え、世界でもトップクラスの内視鏡センターやIVR (Interventional Radiology) センターでは、AIだけでなく全ての技術を集約しより低侵襲な医療の開発に取り組んでいます。その一環として、「ロボット手術・開発センター」が設置されています。また伝統的に高難度な血管合併切除再建を伴う手術や、マイクロサージャリーによる再建を要する手術も経験することが可能です。

また各領域の第一人者による充実した指導を厳しくも、家庭的な雰囲気の中、直接受けることができること、全国より集まる同じ志を持った優秀な同僚と一緒に研修できること、全国でがん診療をけん引している多くの国立がん研究センター出身の先輩たちと交流する機会があること、このような修練する間に得られた人間関係の蓄積は一生の財産になると信じます。私自身も1992年、胃外科のチーフレジデントとして1年間過ごしました。その時の経験、修練が今の自分を支えているといっても過言ではありません。

皆さんのような意欲に満ちた、優秀な人材なくしては、日本のがん医療の将来はありません。皆様方と一緒に、がん患者さんに最高の医療を提供し、そして明日のより良いがん医療を創っていきましょう。

国立がん研究センター 中央病院長
瀬 戸 泰 之

development

国立がん研究センター中央病院の人材育成

国立がん研究センター中央病院のレジデント制度は、国立がんセンターの開設とほぼ同時に創設され、50年以上の歴史を有する日本で最も歴史のあるがん診療に特化した医師の専門研修制度の1つです。この間に、日本のがん診療やがん研究のリーダーとなる多くの人材を輩出しています。レジデントやがん専門修練医のOB/OGは国立がん研究センターをはじめ、全国のがんセンター、大学などで活躍しており、がんに関連する多くの学会でも中心的な役割を担っています。国立がん研究センターのレジデントを修了した医師がわが国のがん医療の中枢を担っていると言っても過言ではありません。

現在では3年間、2年間のレジデントコースに加えて、がん専門修練医コース、レジデント短期コース、そして連携大学院コース、高度技能医コースと多岐にわたる研修プログラムを開設しています。どのコースを選択しても、やる気さえあれば、非常に充実した研修や研究を行うことができます。がんに関連する専門医の取得はもちろんのこと、順天堂大学、東京慈恵会医科大学、長崎大学、慶應義塾大学、埼玉医科大学などとの連携大学院制度もあり、レジデントやがん専門修練医在籍中に行った研究成果に基づき、学位を取得することも可能です。

国立がん研究センター中央病院での研修の特徴は、圧倒的な症例数の多さ、各領域の第一人者による充実した指導、最新の診療・研究設備などが揃っていること、などです。これらすべてが研修をするうえで非常に重要であることは言うまでもありませんが、さらに重要なことは全国より集まる同じ志を持った優秀な同僚と一緒に研修できることです。国立がん研究センター中央病院で研修することにより、最先端の治療技術や知識を身に着けることは当然ですが、ここで得られる指導医、先輩、同僚、後輩などとの人間関係は一生の大きな財産になります。

国立がん研究センター中央病院には最先端の設備、豊富な症例、日本有数の研究環境、有能な指導者など他施設の追随を許さない研修環境があります。国立がん研究センター中央病院はNewsweek誌による世界の優秀な病院ランキング「World's Best Specialized Hospitals」Oncology部門において、2021年から2024年にかけて4年連続で日本1位に選出されています。将来、がん診療やがん研究に従事しようと考えているのであれば、当院以上の研修を受けられる環境はないと確信しています。是非、一人でも多くの若い医師の皆さんに当院で一緒に研修していただき、将来の日本のがん診療、がん研究をけん引する人材になってもらいたいと願っています。

人材育成センター長
大 江 裕 一 郎

actual data

データで見る中央病院 2022年4月～2023年3月末時点

WORLD'S BEST SPECIALIZED HOSPITALS ONCOLOGY 2024 Newsweek statista NATIONAL CANCER CENTER HOSPITAL

診療 Medical Care

がん診療のリーディングホスピタルとして全国からさまざまな疾患が集まり、ハイボリュームセンターの役割を全うしています。
A highly specialized center, we serve a large population of cancer patients.
Cancer patients from throughout the nation come to us, a leading hospital in cancer medicine.

外来件数 Outpatients
- 初診 First visit: **15,392** 人
- 再診 Return visit: **366,608** 人

入院件数 Inpatients
- 入院患者数（1日平均） Daily inpatients: **494.3** 人
- 入院平均在院日数 Average stays, in days: **9.7** 日

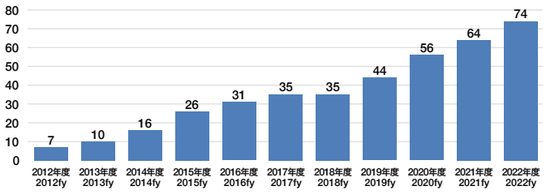
- 手術件数 Surgeries: **5,503** 件
  - うち鏡視下手術数 Endoscopic: **1,440** 件
  - うちロボット手術数 Robot-assisted: **293** 件
- 内視鏡手術件数（検査・処置・治療を含む） Endoscopic procedures (including examinations /treatments): **19,753** 件
- 放射線治療新患数 Radiotherapy new patients: **2,528** 人
- 外来抗がん剤治療（経口剤+注射剤）件数 Outpatient chemotherapies: **41,919** 件
- 通院治療センター症例数（1日平均） Patients treated daily at Outpatient Treatment Center: **208.8** 件
- IVRセンター治療件数 Patients treated daily at Interventional Radiology Center: **7,478** 件
- 検診センター総受診者数 Screened patients at Screening Center: **2,386** 人
- 患者サポートセンター利用人数 Patients served at Patient Flow Support Center: **50,914** 件
- 希少がんホットライン相談件数 Phone consultations on Rare Cancer Hot Line: **2,956** 件
- がん相談支援センター相談件数 Cancer support center: **16,038** 件
- セカンドオピニオン Second opinions: **3,491** 件
  - 対面 In person
  - オンライン（全て希少がんに対応） Online(rare cancer consultations): **172** 件

研究 Research

がん研究において日本一の企業治験・医師主導治験を誇り、国内外のがん研究所を牽引しています。
Largest number of industry-sponsored clinical trials and IITs, serving research within and beyond Japan

- 医師主導治験 実施症例数 Investigator-initiated clinical trials: **90** 件
  - うち中央病院主導 Sponsored by NCCH: **4** 件
- 企業治験新規実施件数 Clinical trials sponsored by companies: **83** 件
- 国際共同治験新規試験数 International trials: **63** 件

First in Human（FIH）試験実施件数
First in Human（FIH）clinical trials



教育 Education

がん専門病院だからこそできる専門性の高い人材を育成します。
Highly specialized training provided, only possible at NCC Hospital

- レジデント数（コメディカル、専攻医含む） Residents (including co-medical staffs and doctors): **178** 人
- 診療・教育カンファレンス数 Medical / Educational Conferences: 約 **2,200** 件
- 海外からの受け入れ人数※ Visitors from overseas
  - 2018年度 2018fy: **235** 人
  - 2019年度 2019fy: **225** 人

※新型コロナウイルスの水際対策により2020年からは受け入れ人数が少ないため記載しておりません。
Pre-pandemic data, immigration numbers extremely limited 2020-

職員数 Staff

専門性の高い人材が中央病院を支えています。
Highly specialized professionals support our services

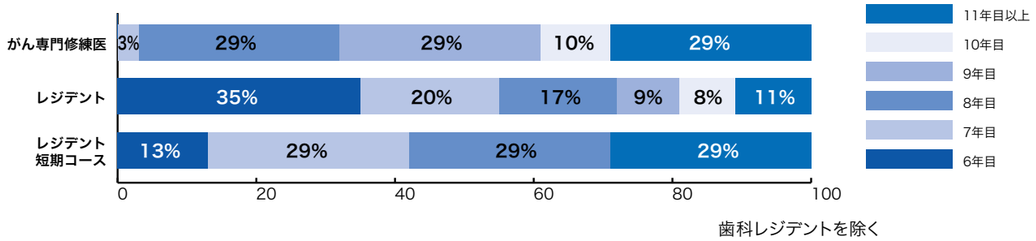
1,477 人 うち、医師 **356** 人 うち、看護師 **712** 人
1,477 (356 Physicians) 712 Nurses

職員数（常勤 / 2023 年 4 月 1 日時点） Staff (Full-time / April 1,2023)
- うち専門看護師 **16** 人 16 professional
- 認定看護師 **43** 人 43 certified

information

研修に関連する情報

入職時卒後年数（2024年4月在籍者）



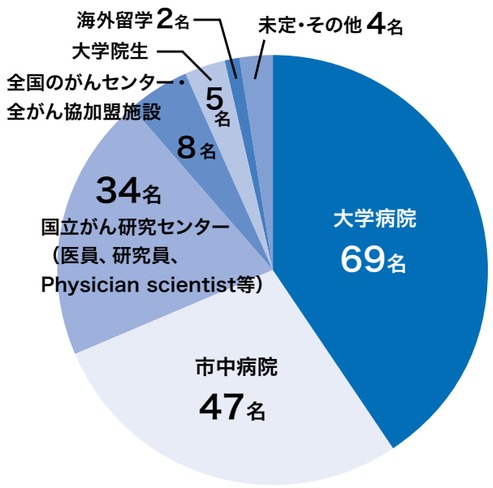
歯科レジデントを除く

研修期間中の業績（2021年度～2023年度修了者）

	2021年度 35名	2022年度 38名	2023年度 45名
論文（英文）	32本	33本	40本
論文（和文）	7本	13本	9本
国際学会	7回	16回	32回
国内学会	100回	123回	142回

レジデント短期コース、専攻医を除く

研修後の進路（2021年度～2023年度）



研修継続者、専攻医を除く

院内施設

レジデント宿舎（例）

研修室（例）

レジデント宿舎／研修室

希望者には病院に直結した院内宿舎が貸与され、研修や研究に専念しやすい環境が整備されています。（単身用）
宿舎費は1か月あたり10,000円から15,000円（共益費3,000円、水道光熱費別）です。
レジデント宿舎に入居しない場合は、研修机とロッカーが利用できます。

保育園

病院敷地内に院内保育園が完備されており、延長保育、夜間保育、休日保育、一時保育などに対応が可能な体制にあります。
当院レジデントは男性72%、女性28%と女性医師が比較的多く、研修期間中の妊娠・出産に対するサポート体制もあります。
男女問わず、育児と仕事の両立がしやすい研修環境です。

図書館

がん対策や研究活動を支援するため資料を広く収集しており、がん医療に関する日本屈指の図書・蔵書を誇っています。
近年はオンラインによる文献検索、二次資料サービスの施設契約を進めており、UpToDate®、Web of Science®、Cochrane Library®、医中誌®、メディカルオンライン®などをレジデントの先生方が自由に利用することが可能です。
VPN導入により、電子ジャーナルも含めて、出張先でも利用可能になりました。

OA機器室

電子カルテ端末、PC、複合機などが設置され、レジデントの先生方はいつでも自由に利用できます。また、別途WEB会議用の部屋やノートPCの貸し出しも行っています。

Facebook

教育・研修等に関する情報を随時掲載しています。
https://www.facebook.com/CancerEducation/

新専門医制度

今後変更となる可能性もあります。

●基本領域

国立がん研究センター中央病院は、以下の領域で［基幹施設］となっています。

領域	診療科	連携施設
皮膚科	皮膚腫瘍科	愛知医科大学病院 川崎医科大学附属病院 川崎市立川崎病院 久留米大学病院 慶應義塾大学病院 国立がん研究センター東病院＊ 佐賀大学医学部附属病院 静岡県立静岡がんセンター 筑波大学附属病院 東京都立駒込病院＊ 平塚市民病院 東京医科歯科大学病院 名古屋大学医学部附属病院 三重大学医学部附属病院 横浜市立大学附属病院

領域	診療科	連携施設
放射線科	放射線診断科 放射線治療科	国立がん研究センター東病院 東京大学医学部附属病院 山梨大学医学部附属病院
病理	病理診断科	国立がん研究センター東病院 国立国際医療研究センター 国立成育医療研究センター 埼玉小児医療センター 聖路加国際病院 東京医療センター 東京都健康長寿医療センター 東京都済生会中央病院 東京病院 獨協医科大学埼玉医療センター JR東京総合病院
臨床検査	臨床検査科	－

＊連携予定

国立がん研究センター中央病院は、以下の領域で［連携施設］となっています。

領域	診療科	基幹施設
外科	乳腺外科 呼吸器外科 食道外科 胃外科 大腸外科 肝胆膵外科	愛知医科大学病院 香川大学医学部附属病院 鹿児島大学病院 九州医療センター 杏林大学医学部付属病院 慶應義塾大学病院 さいたま赤十字病院 順天堂大学医学部附属順天堂医院 聖マリア病院 東京医科歯科大学医学部附属病院 東京慈恵会医科大学附属病院 東京大学医学部附属病院 東京都立墨東病院 東北大学病院 日本赤十字社医療センター 防衛医科大学校病院
内科	腫瘍内科 呼吸器内科 消化管内科 内視鏡科（消化管） 内視鏡科（呼吸器） 肝胆膵内科 血液腫瘍科 造血幹細胞移植科 緩和医療科 先端医療科 頭頸部・食道内科	永寿総合病院 NTT東日本関東病院＊ 岡山大学病院 沖縄県立中部病院 亀田総合病院＊ 北里大学病院 杏林大学医学部付属病院 久留米大学病院 慶應義塾大学病院 国立国際医療研究センター国府台病院 国立国際医療研究センター病院 滋賀医科大学医学部附属病院 静岡赤十字病院 順天堂大学医学部附属順天堂医院 湘南鎌倉総合病院 聖路加国際病院 高松赤十字病院 帝京大学ちば総合医療センター 同愛記念病院 東海大学医学部付属病院 東京医療センター 東京慈恵会医科大学附属病院 東京慈恵会医科大学附属柏病院 東京大学医学部附属病院 東京都済生会中央病院 東京都立駒込病院 東京都立墨東病院 虎の門病院 長野赤十字病院 名古屋医療センター 日本医科大学付属病院 日本医科大学武蔵小杉病院 日本赤十字社医療センター 福島県立医科大学附属病院 藤沢市民病院
脳神経外科	脳脊髄腫瘍科	東京大学医学部附属病院（関連施設は複数あり）
眼科	眼腫瘍科	東京大学医学部附属病院
耳鼻咽喉科	頭頸部外科	岡山大学病院 杏林大学医学部付属病院 熊本大学病院 順天堂大学医学部附属順天堂医院 東海大学医学部付属病院 東京医科大学病院 東京大学医学部附属病院 東邦大学医療センター佐倉病院 長崎大学病院

領域	診療科	基幹施設
形成外科	形成外科	岡山大学病院 杏林大学医学部付属病院 東京医科歯科大学医学部附属病院 東京大学医学部附属病院 日本医科大学付属病院
泌尿器科	泌尿器・ 後腹膜腫瘍科	東京慈恵会医科大学附属病院 虎の門病院
産婦人科	婦人腫瘍科	国立国際医療研究センター病院 千船病院 東京医科歯科大学医学部附属病院
整形外科	骨軟部腫瘍・ リハビリテーション科	慶應義塾大学病院 昭和大学病院 東京女子医科大学病院
皮膚科	皮膚腫瘍科	愛知医科大学病院 川崎医科大学附属病院 久留米大学病院 慶應義塾大学病院 佐賀大学医学部附属病院 筑波大学附属病院 東京医科歯科大学病院 名古屋大学医学部附属病院 三重大学医学部附属病院 横浜市立大学附属病院
精神科	精神腫瘍科	慶應義塾大学病院 国立精神・神経医療研究センター 東京大学医学部附属病院
放射線科	放射線診断科 放射線治療科	関東労災病院 北里大学病院 群馬大学医学部附属病院 国際医療福祉大学成田病院 国立がん研究センター東病院 国立国際医療研究センター病院 埼玉医科大学国際医療センター 自治医科大学附属病院 順天堂大学医学部附属浦安病院 順天堂大学医学部附属静岡病院 聖マリアンナ医科大学病院 千葉大学医学部附属病院 東京大学医学部附属病院 名古屋大学医学部附属病院 山梨大学医学部附属病院
病理	病理診断科	関西医科大学附属病院 国立国際医療研究センター病院 滋賀医科大学医学部附属病院 聖路加国際病院 東京医療センター 東京都健康長寿医療センター 日本赤十字社医療センター 福井大学医学部附属病院 防衛医科大学校病院 横浜市立大学附属病院
麻酔科	麻酔・集中治療科	岡山大学病院 神戸大学医学部附属病院 順天堂大学医学部附属順天堂医院 昭和大学病院 東京女子医科大学病院 東京大学医学部附属病院 東邦大学医療センター大森病院

＊連携予定

●サブスペシャルティ領域

国立がん研究センター中央病院は、日本専門医機構が認定している 24 領域のうち以下の領域で基幹施設となっています。

▼消化器内科 ▼呼吸器内科 ▼血液 ▼消化器外科 ▼呼吸器外科 ▼乳腺外科 ▼腫瘍内科 ▼消化器内視鏡 ▼放射線診断 ▼放射線治療

認定医・専門医研修施設の認定

国立がん研究センター中央病院は、各種認定医・専門医研修施設として認定されています。

日本内科学会
日本外科学会
日本医学放射線学会
日本胃癌学会
日本遺伝性腫瘍学会
日本インターベンショナルラジオロジー学会
日本核医学会
日本カプセル内視鏡学会
日本眼科学会
日本感染症学会
日本肝臓学会
日本肝胆膵外科学会
日本がん治療認定医機構
日本緩和医療学会
日本形成外科学会
日本血液学会
日本呼吸器学会
日本呼吸器内視鏡学会
日本産科婦人科学会
日本産科婦人科内視鏡学会
日本耳鼻咽喉科学会
日本集中治療医学会
日本消化管学会
日本消化器外科学会
日本消化器内視鏡学会
日本消化器病学会
日本小児血液・がん学会
日本食道学会
日本女性医学学会
日本心身医学会
日本心身医学会・日本心療内科学会合同
日本膵臓学会
日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
日本整形外科学会
日本総合病院精神医学会
日本大腸肛門病学会
日本胆道学会
日本超音波医学会
日本頭頸部外科学会
日本乳癌学会
日本脳神経外科学会
日本泌尿器科学会
日本皮膚科学会
日本病理学会
日本婦人科腫瘍学会
日本放射線腫瘍学会
日本麻酔科学会
日本輸血細胞治療学会
日本臨床栄養代謝学会
日本臨床検査医学会
日本臨床細胞学会
日本臨床腫瘍学会
呼吸器外科専門医合同委員会

最新の施設認定状況については病院ＨＰでご確認下さい。

system

連携大学院制度

「学位」が取得できる画期的な連携大学院制度

国立がん研究センターは、慶應義塾大学、埼玉医科大学、順天堂大学、東京慈恵会医科大学、長崎大学、それぞれと連携協力のための協定書を締結し、「連携大学院制度」を導入しております。

2012年度から開始しているこの連携大学院制度は、レジデントなどの臨床研修期間中に、国立がん研究センター内で研究活動にも取り組み、その成果をもって学位の取得ができるという画期的なものです。国立がん研究センター内でも一部の授業科目の単位の修得を可能とするなど、連携大学院生の負担を軽減しつつ、十分な臨床研修・研究活動を行う環境を整備し、がんを専門領域とする若手医師が研究に取り組むことができる万全の態勢を整えています。2018 年度からは学位取得を目指す方を対象とした連携大学院コースも設定しました。

連携大学院制度は、リサーチマインドを持ち幅広い知見を持った臨床医を育成していくことを目的としています。多くの方がこの制度を利用することを期待しております。

【連携大学院制度の出願について】

すべての研修医に適応されるものではありませんので、研修コース・診療科によっては連携大学院制度をご利用いただけない場合があります。
出願を希望される方は必ず下記までお問い合わせください。

連携大学院制度についてのお問い合わせ　kyoiku-resi@ncc.go.jp

連携大学院制度による学位取得者数（国立がん研究センター全体）

制度開始からこれまでの12年間で、合計160名の先生方が学位を取得されています。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学位取得者	16名	14名	25名	14名	23名

連携大学院生 人数（中央病院がん専門修練医・レジデント）

がん専門修練医・レジデントとして在籍する医師の約20-30%が連携大学院制度を利用しています。
連携大学院コース選択者以外でも、連携大学院生となって学位取得を目指すレジデント等は多くいます。
入職後、1-2年経ってから連携大学院に入学することも可能です。

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
がん専門修練医	当院在籍者	47名	37名	36名	38名	35名
	連携大学院生	9名	9名	11名	9名	9名
レジデント	当院在籍者	69名	75名	86名	81名	79名
	連携大学院生 *うち連携大学院コース	14名*3名	19名*5名	23名*7名	26名*4名	27名*4名

●連携大学一覧

慶應義塾大学

1・2年次は慶應義塾大学信濃町キャンパスで講義を受講しながら、国立がん研究センターで臨床研修や研究活動を行います。研究内容としては、4年の間に基礎研究や臨床研究で成果を上げることが想定されています。カリキュラムや入学試験等については、慶應義塾大学大学院医学研究科のホームページをご参照ください。

入学試験要項
http://www.med.keio.ac.jp/admissions/doctoral/guidelines.html
履修案内・講義概要
https://www.students.keio.ac.jp/sn/gsmed/class/registration/doctor.html

埼玉医科大学

埼玉医科大学大学院医学研究科博士課程「連携大学院臨床基礎医学」では、国立がん研究センターで診療・研究に従事したまま、国立がん研究センター所属の連携教員や埼玉医科大学教員の指導を受け、国立がん研究センターでの研究成果で学位申請していただけます。e-leaningやWebを十分活用した講義や、演習・実習を組み合わせた多彩な分野の履修が可能です。埼玉医科大学には3つのキャンパスがあり、それぞれに特徴を持った多彩な基本学科が設置されており、幅広い分野の専門家が多数在籍し、がん関連領域の手厚い研究指導も受けることができます。また、今年度から、関東次世代のがん専門医療人養成プラン（がんプロ）のコースを取得できます（e-leaning講義）。カリキュラムや入学試験情報は下記HPをご参照ください。

埼玉医科大学ホームページ　http://www.saitama-med.ac.jp/index.html
埼玉医科大学大学院ホームページ　http://www.saitama-med.ac.jp/graduate/index.html

順天堂大学

順天堂大学にて開講されるコアプログラム（短期集中の基礎教育コース、数週間の実践教育コースや、夜間開講の大学院特別講義（Web配信によるビデオオンデマンドでの受講も可）など）を受講しながら、国立がん研究センターが開講する専門プログラム（臨床研修や研究活動）を受講します。研究内容としては、4年の間に基礎研究や臨床研究で成果を上げることが想定されており、国立がん研究センター内での研究成果を学位論文とすることが可能です。カリキュラム・入学試験等については、順天堂大学大学院医学研究科のホームページをご参照ください。

カリキュラム　https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/med/doctor/curriculum/
電子シラバス　http://dr-syllabus.juntendo.ac.jp/
入試概要　https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam_graduate/med/doctoral/outline/

東京慈恵会医科大学

東京慈恵会医科大学にて開講される共通カリキュラム（必修科目は原則平日18時以降、または土曜日に開講し、1年間で修了に必要な単位の取得が可能。選択科目は1科目3日～4日間程度の集中授業の他、e-learning科目も有るため必要単位を全て在宅で取得することも可能）を受講しながら、国立がん研究センターで臨床に従事したまま研究活動を行います。研究内容は連携大学院教員の指導のもと、選択カリキュラムとして基礎研究や臨床研究で成果をあげ、学位取得を目指します。カリキュラムの概要や入学試験日程等については東京慈恵会医科大学大学院医学研究科のホームページをご参照ください。

https://www.jikei.ac.jp/graduate-school/medicine-doctoral/

長崎大学

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程では、国立がん研究センターと連携して、医療科学専攻に「包括的腫瘍学分野」を設けています。この包括的腫瘍学分野で研究指導を受ける学生は、専攻の枠を越えた多様な科目を、講義室やオンデマンド、リアルタイムオンラインで受講することができます。そのため、学生は長崎大学に通学することなく、国立がん研究センターで演習や研究指導を受けながら学位を取得することも可能です。包括的腫瘍学分野における研究では、がんの本態解明や予防などの基礎研究から、診断・治療や病態生理といった臨床研究、がんサバイバーシップや個別化医療開発といった応用まで、がんに関わる幅広いテーマが扱われています。

大学院ホームページ
https://mdp.nagasaki-u.ac.jp/
入学希望の皆さまへ
https://mdp.nagasaki-u.ac.jp/admission/

※前述の大学以外の大学院に在籍されている方も、現在の在籍先の承認が得られれば当院で研修が可能です。

Physician Scientist

がん領域のPhysician Scientistを目指す！

Physician Scientistについて

昨今のがん領域の研究では、基礎と臨床を繋ぐ「橋渡し研究」（トランスレーショナル研究;TR）の重要性が増しており、がんの基礎研究の豊富な知識と経験を有する臨床腫瘍医（medical oncologist）の育成が望まれています。
そうした状況の中、国立がん研究センターにおける今後の開発研究を促進することを目的として、臨床と研究の往来を活発化し、将来のTRを担う研究志向を持った臨床医（Physician Scientist）を養成するために、国立がん研究センター中央病院または東病院におけるがん専門修練医もしくはレジデントを修了 した者（もしくは採用時までに修了予定の者）を対象に本プログラムが設けられました。

-Physician Scientist 制度に期待すること -　中釜 斉 理事長

Physician Scientist 制度は、がん医療の最前線の現場を経験した者が基礎研究にも携わることにより、新たな医療技術開発のための TR/rTR（橋渡し研究）を担える臨床医を養成するものです。当センターは病院と研究所、あるいは先端医療開発センター（EPOC）等の研究機能が同一の施設内にあることから、基礎研究者と臨床医との連携によるTR/rTR を推進する上でとても恵まれた環境にあります。TR/rTRを実践できる環境を整え、人材を育成することが、がん医療・がん研究の発展のためには極めて重要であると考えています。

臨床の現場で、患者さんに対して最適と考えた治療が奏効しなかった際の疑問・課題を、医師と研究者とでタイムリーに共有し、両者の専門性を組み合わせることで、課題解決の糸口を短時間で見出せることがあります。正に rTR の醍醐味です。一方、研究で見出されたシーズが TR の成果として実際の患者さんに医療として実装できるまでには、基礎及び開発研究者の不断の努力と長期間にわたる検証の積み重ねがあることを、医療の実践に当たる者が知ることも重要です。Physician Scientist が病院と研究所を自由に往来し、基礎および開発研究者と臨床医の思考やアイデアが交錯することで、TR/rTR 推進に資する新たな化学反応が生じ、最先端の科学を医療に届 ける文化が醸成することが期待されます。医療現場における課題克服に向けたモチベーションを一層高めることにつながる Physician Scientist制度を当センターが設けることの意義は極めて大きいと考えています。

Physician Scientist 制度が臨床と基礎および開発研究の双方向の連続性を強化し、今後のがん医療・がん研究の一層の発展に寄与してくれることを期待しています。

理事長対談 –Physician Scientist(PS) 紹介

ゲノム生物学研究分野
立石 晶子

2018年４月 呼吸器内科レジデントとして入職
2021年４月 呼吸器内科がん専門修練医として再入職
2024年 研究所ゲノム生物学研究分野のPSとして再入職
現在に至る

中央病院のレジデントを志望した理由

一般呼吸器内科の後期研修が修了し、肺癌を専門にしたいと考えておりました。肺癌だけでなく他科のローテーションができ、がん薬物療法専門医のための研修もできる点、また肺癌領域でエビデンスを作っている先生方から直接指導を受けられる環境が魅力的と感じたためです。

ゲノム生物学研究分野
井川　由季子

2018年４月 呼吸器内科レジデントとして入職
2021年４月 呼吸器内科がん専門修練医として再入職
2024年４月 研究所ゲノム生物学研究分野のPSとして再入職
現在に至る

中央病院のレジデントを志望した理由

今まで総合病院で一般臨床をしましたが、あまり研究に携わる機会がなく、また、検体やデータ・人員不足などもあって、インパクトのある論文を書くことができませんでした。
がんセンターは、治験や多施設共同試験などを始めがんの分野で常に先導をいく存在であり、多くの検体、データを持ち合わせていることから、将来のよりよい医療の礎を築くための研究がみつかる環境であると感じ、志望しました。

レジデント時代の成果、PSを目指した理由

レジデント修了後は様々な研究にも関わらせていただいたこともありそのまま研修を続けたいと思い修練医として勤務しました。レジデント～修練医では大規模な TR の研究の臨床部分に関わったり、前向き研究を計画し事務局をしたりとがんセンターならではの経験をさせていただいております。臨床研究を行っている過程で様々な TR 研究に触れ、ここ数年臨床と基礎研究の距離が非常に縮まっていると感じました。臨床で起こってきた疑問にゲノム解析の視点を加えることにより、事象の説明ができたり、より深い考察ができることを実感し、自分でゲノム解析ができるようになりたいと思い PS を目指しました。

PSの活動で目指している事は？

ゲノム解析で、アノテーションされてきたデータを使ってプログラムを回して可視化したり、解釈するなど、ドライ解析がある程度できるようになりたいと考えています。現在は悪性胸膜中皮腫に対する免疫チェックポイント阻害薬の効果や有害事象に遺伝子変異や免疫環境がどのように関わっているかを WGS や RNA-seq 解析で検討したり、早期 EGFR 肺がんの再発リスクを遺伝子、臨床、画像的に検討する研究もしており、PS 期間中にそれらを形にしたいと考えております。

今後（将来）の展望

基礎研究で培っているゲノムの知識と、臨床で実際出会うクリニカルクエスチョン、双方の視点から研究を立案、実施したり、基礎研究で得られた知見をいち早く臨床に還元したいと考えています。

レジデント時代の成果、PSを目指した理由

レジデント生活を送る中で様々な研究に携わらせていただき、ベッドサイドで生まれるクリニカルクエスチョンからそれを研究に繋げていく楽しさを学びました。その間に、国際学会、国内学会あわせ、複数の学会に研究成果を発表し、複数の論文を作成しました。また、継続して研究を続けていく中で、課題は次々に生まれていきました。そのため、臨床と研究の架け橋になることに大きな意義を感じ、PSを志望しました。

PSの活動で目指している事は？

現在、臨床、研究所（ゲノム解析）の両者において同じ分野のテーマを持ち、それぞれ違う角度から研究を進めています。臨床のデータだけでは解明できない点を研究所において患者さんの検体を用いた解析を行うことで、よりエビデンスレベルの高い研究を実現させることが可能であると感じています。臨床と研究の架け橋となるようこれらの研究を進めていき、いつしか病態解明の一歩に繋がることを目指しています。

今後（将来）の展望

現在、保険承認を目的とした医師主導治験を計画しており、実現に向けて準備を進めているところです。未だエビデンスの少ない領域であり、当院のデータで背景論文を作成中です。自身が先駆者となってその試験を成功させることを目標としています。

研究が上手くいかない時、どうやって克服しましたか？

立石：
克服はまだできていないです。プログラムを回そうと試行錯誤しても回せず、今日も何も得られなかった、ということがよくあります。また何日もかけてやってきた作業が振り出しに戻るということもあります。
臨床をやっていると、日々患者さんに自分の経験や知識が生かされるタイミングがあるので、それがモチベーションになりやすいです。
研究にはそれがなく、日々の充実感や社会貢献感を感じにくいので、そのような観点での臨床現場とのギャップに最初の頃は苦しみました。

中釜理事長：
とても重要な要素です。基本的に上手くいかないと割り切ればいいんだけど、十中八九、90% 以上うまくいかないですよね。
日々失敗の連続で、そこの中で僅かにうまくいったかなと思うところに至ると、また 2.3 日後、それが失敗だったとなる。
行って帰っての繰り返しです。どうやって自分を納得させてモチベーションを維持するかという問題に、最終的にはなってくるとは思うんだけどね。
これから色々経験されると思いますが、振り返ってみると、やっぱり失敗の経験が大きい。うまくいった話をいくら聞いても、あまりためにならない。うまくいった話というのは、聞くとそうなんだとなりますが、その人もおそらく失敗の連続でやっとうまくいった。
自分のやった失敗の方が、経験値としては大きいということはありますよね。
立石先生のこの経験は本当に大事にした方がいいなと思います。

海外留学をしてみたいですか？

井川：
今まで臨床ばかりやってきて、ドライ解析もまだまだ学習段階ですので、今はまだ時期尚早と考えています。また、ウェットの実験の経験もかなり不足しているので、できれば研究所で様々な経験を積んでいきたいと考えています。PS の間はとても貴重な期間なので、これらの研鑽を積み、手技をある程度習得した上で将来的には海外研修ができたらいいな、と考えています。

中釜理事長：
最近ウェットの実験をするところが減っては来ていますよね。今後、臨床に戻られるにしても研究を続けるにしても、短い時間でいいと思うんですけど、海外の技術・知識に触れるために、数か月単位でも一度海外研修に行かれてみるのは大事だと思います。海外ではまったく発想が違ったりもするかもしれないし、論文で目にするよりもはるか半年、１年くらい先のことをディスカッションしていたりします。
海外留学は、みなさんどこかでされると良いと思います。私の経験上、自分の視野を広げるという意味でも、早い段階で海外研修に挑戦してみてください。海外の学会に多く行って、知り合いを作っていくのも良い経験だと思います。
センターでは海外留学（研修）の支援が充実しているので、是非検討をしてみてください。

overview

研修制度概要

■ がん専門修練医　　" 各領域のリーダーを目指す "

がんの診断・治療・研究に必要な高度先進的な知識と技術を有するがん診療の専門医を育成することを目的としています。指導医のもとで高度の知識・技術の習得・開発、さらには臨床研究、トランスレーショナルリサーチ、基礎研究も実践します。各領域の将来のリーダーを目指す人材の育成を目的とした研修制度です。

対象者	原則として当センターレジデント修了者、またはサブスペシャルティ領域専門医取得相当の医師、または同等の能力を有する医師 ※がん専門修練医経験者の再応募は原則不可
研修期間	2 年間
研修課程	● がん専門修練医の臨床系の他科のローテーションは原則不可とする。 事前申請により承認されたローテーションカリキュラムについては、各診療科のプログラムページにて確認すること。 ● 原則として第1学年を臨床、第2学年を研究にあてる。研究とは臨床研究を指すが、希望により研究所での基礎的な研究を申請することもできる ● がん専門修練医は申請すれば外来診療を行うことができる。外来ブースには限りがあるため、最終的には教育･研修に関する会議で調整を行う

■ レジデント（3年コース・2年コース）　" 国立がん研究センター教育・研修制度の中核 "

複数診療科のローテーション研修、あるいは特定診療科の研修を通して、がんに関する幅広い知識と技術の習得を目指します。我が国を代表する指導医のもとでがん診療、がん研究に従事することにより、日本のがん医療を支える、すぐれたがん専門医を育成することを目的とした、国立がん研究センター教育・研修制度の中核となる研修制度です。２年コースについては研修開始時期が選択可能です。

対象者	原則として基本領域専門医取得相当の医師 ※がん専門修練医・レジデント（短期コースを除く）経験者の再応募は原則不可
研修期間	3 年間または 2 年間
研修課程	● ローテーションは原則3か月単位とし、それぞれのコース毎に定めるカリキュラムに従う。具体的には、個人の経験やコースの特殊性を考慮し、レジデント教育責任者等と協議して決定する。調整を行う必要が生じた場合は、原則として教育･研修に関する会議等の審議を経て決定する ● 入職後1.5年目までにCCM（Critical Care Medicine）と呼ばれるICU（集中治療室）･Oncologic Emergency 研修および緩和医療研修を必修とする。必修期間は別表のとおりとする

■ 連携大学院コース

既に研究開始の準備ができている方を対象として、連携大学院制度を活用し、診療研修と同時に、研究活動を早い段階から開始できるコースです。

対象者	レジデント 2 年コースに準ずる
研修期間	4 年間（レジデント 2 年＋修練医 2 年）
研修課程	レジデント 2 年コース および がん専門修練医に準ずる ※がん専門修練医への採用には再度試験 を行う

■ 高度技能医コース

既に一定の手術経験を有する方を対象として、他の医療機関では得られない更に高度な手術手技を習得できるコースです。

対象者	レジデント 3 年コース・2 年コースに準ずる
研修期間	5年間（レジデント3年＋修練医2年）または4年間（レジデント2年＋修練医2年）
研修課程	レジデント 3 年コース・2 年コース および がん専門修練医に準ずる ※がん専門修練医への採用には再度試験 を行う

■ レジデント（短期コース）

がん医療の均てん化に貢献することを目的として、柔軟な研修開始時期、研修期間により研修者のニーズに幅広く対応するための研修制度です。研修開始時期は４月、７月、10 月、１月から選択可能です。

対象者	原則として基本領域専門医取得相当の医師 ※がん専門修練医・レジデント経験者の再応募は原則不可 ※レジデント短期コース経験者は通算18か月以内であれば再応募可
研修期間	6か月から18か月まで
研修課程	● ローテーションは原則3か月単位とし、それぞれのコース毎に定めるカリキュラムに従う。具体的には、個人の経験やコースの特殊性を考慮し、レジデント教育責任者等と協議して決定する。調整を行う必要が生じた場合は、原則として教育･研修に関する会議等の審議を経て決定する ● CCM（Critical Care Medicine）と呼ばれるICU（集中治療室）･Oncologic Emergency研修および緩和医療研修を必修とする。必修期間は別表のとおりとする

■ 専攻医コース（基幹施設型・連携施設型）

新専門医制度のもと、当センターで基本領域の研修を希望される研修者を対象としたコースです。
皮膚科・放射線科・病理・臨床検査の４領域で基幹施設となっています。詳細は各科のページをご覧ください。
また、連携施設として、各プログラムに沿った研修が可能です。
新専門医制度（基本領域・サブスペシャルティ領域）への対応状況は10-11ページもご参照ください。

■ 任意研修

１日以上の任意の期間で研修できる制度です。処遇、手続き等が通常のレジデント制度とは異なるため、希望される方は下記までお問い合わせください。

任意研修についてのお問い合わせ　kyoiku-resi@ncc.go.jp

CCM研修、緩和医療研修　必修期間

研修期間	外科・外科系 レジデント	内科・内科系 レジデント
6か月	なし	なし
6か月超	CCM1か月	CCM1か月
1年超	CCM2か月	CCM2か月、緩和1か月
2年超	CCM3か月	CCM2か月、緩和1か月

※ CCM 研修
Critical Care Medicineと呼ばれるICU・Oncologic Emergency研修のこと
病理診断科、臨床検査科、歯科、臨床研究支援部門の各コースでの研修者を除き、レジデントは必修とする
精神腫瘍科レジデント短期コースでの研修者は選択制とする
夜間勤務・休日勤務あり（勤務表による）

※緩和医療研修
内科・内科系レジデントは必修とする
内視鏡科（呼吸器・消化器）、放射線診断科、外科・外科系、歯科、臨床研究支援部門の各コースでの研修者は選択制とする
後期ローテーションにおいては緩和医療（在宅を含む）研修のみ選択可能

交流研修

必要と認められる場合には、以下に定める施設において研修（交流研修）を受けることができる。

- 東病院
- 研究所
- 先端医療開発センター
- がん対策研究所
- 中央病院人材育成センター運営委員会（レジデント研修･教育に係る委員会）において認められたセンター外の施設

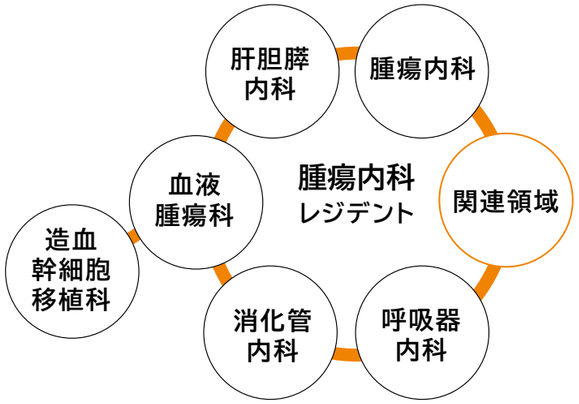
交流研修の期間は以下を原則とする。
（所属部署・受入先部署間の調整および会議での承認が必要）
- がん専門修練医…6か月以内
  （がん専門修練医２年目の研究研修は12か月以内とする）
- レジデント３年コース …6か月以内
- レジデント２年コース …3か月以内
- レジデント短期コース 要相談

期間はそれぞれ1か月以上とする。

overview

研修制度概要

内科総合　レジデントコースのイメージ



- ○東病院
- ○研究所
- ○先端医療開発センター
- ○がん対策研究所
- ○先端医療科
- ○放射線診断科
- ○放射線治療科
- ○呼吸器内視鏡科
- ○消化管内視鏡科
- ○緩和医療科
- ○精神腫瘍科
- ○小児腫瘍科
- ○頭頸部・食道内科
- ○病理診断科・臨床検査科
- ○麻酔・集中治療科
- ○臨床研究支援部門

がん専門医へのスタンダード

がん研究センターが 50 年以上にわたって提供し続けている教育システムには、世界レベルの腫瘍内科研修を行うために必要なものがすべて揃っています。

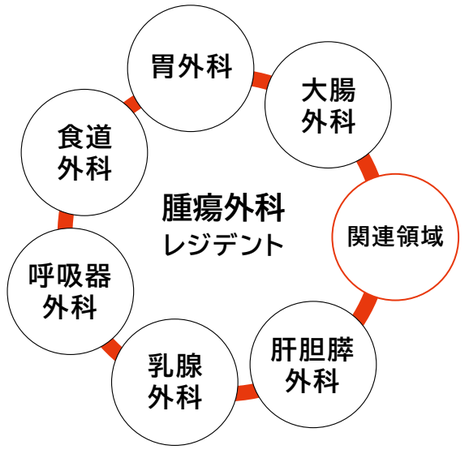
ローテーション

すべてのがん種と必須の関連領域（緩和医療、集中治療）をカバーし、かつ各々が国内最高峰の診療科のローテーションにより、最高の腫瘍内科研修を行います。

選択研修

レジデントコースでは、自らの選んだ選択研修を組むことが可能です。

外科総合　レジデントコースのイメージ



- ○東病院
- ○研究所
- ○先端医療開発センター
- ○がん対策研究所
- ○内科系関連領域
- ○呼吸器内視鏡科
- ○消化管内視鏡科
- ○放射線診断科
- ○麻酔・集中治療科
- ○緩和医療科
- ○病理診断科・臨床検査科
- ○脳脊髄腫瘍科
- ○眼腫瘍科
- ○頭頸部外科
- ○形成外科
- ○泌尿器・後腹膜腫瘍科
- ○婦人腫瘍科
- ○骨軟部腫瘍・リハビリテーション科
- ○皮膚腫瘍科
- ○小児腫瘍外科
- ○臨床研究支援部門

がん専門医へのスタンダード

がん研究センターが 50 年以上にわたって提供し続けている教育システムには、世界レベルの腫瘍外科研修を行うために必要なものがすべて揃っています。

ローテーション

すべてのがん種と必須の関連領域（病理、集中治療）をカバーし、かつ各々が国内最高峰の診療科のローテーションにより、最高の腫瘍外科研修を行います。

選択研修

レジデントコースでは、自らの選んだ選択研修を組むことが可能です。

Q and A

研修に関連する Q&A

Q 研修の特徴は何ですか？

A 当センターレジデントは第56期生を数え、内科、外科ともに、幅広い知識と技術を習得した腫瘍専門医の育成を目指しています。主な診療科をローテーションするシステムを採用し、がん種による偏りなく、薬物療法、手術療法、放射線療法などの実践的知識を身につけられる数少ないがん医療教育機関です。がん医療のエキスパートによる直接指導を受け、かつ全国から集まる医師との結びつきを通じて、知識・技術、人脈を獲得できます。

Q 関連領域を、ローテーションして研修可能ですか？

A 可能です。レジデントコースには関連領域も含め、腫瘍専門医として揺るぎない足場を固めるために必要十分なローテーションが組み込まれたプログラムがあります。領域にかかわらずがん治療に必要な知識、手技を習得するという目的で世界標準のローテーションプログラムを、50年以上前に日本で初めて提供開始した教育病院こそ、国立がん研究センターです。その研修制度は、がん医療が進歩するにつれ重要性を増しています。さらに、レジデントコース以外の先生方にも、関連領域を学ぶ機会が提供されています。

Q レジデント修了後の進路は？

A レジデント修了後、さらに専門性を高めたい方には当院のがん専門修練医コースが２年間用意されています。また、リサーチレジデント等として当院併設の研究所に引き続き所属し、臨床で得た疑問や着想を研究活動に活かしている先生方が多いことも特徴です。当然のことながら、当院修了後、各大学、研究機関、政府機関、地域のがん拠点病院、他の市中病院に異動され、それぞれの立場で腫瘍専門医として活躍されている方はさらに多くいらっしゃいます。

Q がん医療に関わった経験が少なく、がん専門病院での研修に不安があります。

A 当院ロゴマークにもあるように、国立がん研究センターの目標は、世界最高水準のがん診療、最新の治療法研究･開発、そして優れたがん医療教育の提供にあります。実際、当院で研修を開始される時点でほとんどがん治療に関する知識、技術がなかった先生方も、研修修了時点には腫瘍専門医としてひとり立ちできるまでに成長します。まずは現在の施設、環境で、内科、外科など基本領域の知識、技術を習得することに専念し、国立がん研究センターでの研修開始後の飛躍の礎を築いてください。

Q 教育環境について教えて下さい。

A 診療の現場では、頻度の多いがん種から希少がんまで幅広く、かつ他のどの施設よりも豊富な診療経験を、内科治療、外科治療、診断学、すべてのがん医療の局面で実践することが可能です。さらに、100 件を超えるカンファレンス（診療科単位、合同カンファレンス等）が毎週開催され､当院研修中の皆さんが常に参加し、プレゼンテーションし、指導医のフィードバックを受けています。その結果、当院研修中もしくは修了後に、ほとんどの先生方が国内外の学会発表、英文・和文論文の執筆の機会に恵まれています。

Q 研究や学会活動について教えてください。

A 当院での研修中、臨床研究、基礎研究、学会発表、論文執筆等、なんらかの学術活動を実践することが可能です。Japan Clinical Oncology Group(JCOG)等臨床試験グループをはじめとして、新たな治療法の確立のための臨床試験が数多く実施され、その経験が自らの研究の糧になっています。また､併設された研究所を中心として、豊富な臨床検体を用いた基礎研究を実践する機会にも恵まれています。その結果、レジデントの先生方による、国内外の学会発表、英文・和文論文執筆が活発に行われ、きめ細やかな指導医のサポートのもと優れた業績が築かれています。学会参加や論文投稿については必要経費の補助制度も利用可能です（基準有）。

Q レジデント、がん専門修練医の給料はどのくらいですか？

A レジデントコースの月額は概ね 36 万円で、がん専門修練医の月額は概ね 44 万円です。これ以外に時間外手当等の手当が付きます。病院に直結した単身宿舎（有料）を借りることができるため、家賃負担が低減されています。

Q 新専門医制度への対応状況を教えてください。

A 国立がん研究センター中央病院は新専門医制度に対応しています。具体的には、本冊子の10ページに対応状況が取りまとめられています。
なお、新専門医制度自体の変更が多い状況が続いておりますため、最新の情報は専門教育企画係（kyoiku-resi@ncc.go.jp）までご相談ください。

training course

中央病院研修課程

ページ	コース	がん専門修練医	レジデント					専攻医
			3年	2年	連携大学院	高度技能医	短期（6か月から18か月まで）	
21	外科総合	ー	○	ー	ー	ー	ー	連携
22	内科総合	ー	○	ー	ー	ー	ー	連携
24	血液・腫瘍内科総合	ー	○	ー	ー	ー	ー	ー
26	消化器内科総合	○	○	○	○	ー	○	ー
28	脳脊髄腫瘍科	○	○	○	○	ー	○	連携
30	眼腫瘍科	○	ー	○	ー	ー	○（12か月まで）	連携
32	頭頸部外科	○	○	○	ー	ー	○	連携
34	頭頸部・食道内科	○	○	○	○	ー	○	連携＊2
36	形成外科	○	ー	○	ー	ー	○	連携
38	乳腺外科	○	○	○	ー	ー	○	連携＊1
40	腫瘍内科	○	○	○	ー	ー	○	連携＊2
42	呼吸器外科	○	○	○	ー	ー	○	連携＊1
44	呼吸器内科	○	○	○	○	ー	○	連携＊2
46	食道外科	○	○	○	ー	○	○	連携＊1
48	胃外科	○	○	○	ー	ー	○	連携＊1
50	大腸外科	○	○	○	ー	ー	○	連携＊1
52	消化管内科	○	○	○	○	ー	○	連携＊2
54	内視鏡科（消化管）	○	○	○	○	ー	○	連携＊2
55	消化管・胆膵内視鏡エキスパート	ー	ー	○	ー	ー	○	ー
56	内視鏡科（呼吸器）	○	ー	○	○	○	○	連携＊2
58	肝胆膵外科	○	○	○	ー	○	○	連携＊1
60	肝胆膵内科	○	○	○	○	ー	○	連携＊2
62	泌尿器・後腹膜腫瘍科	○	○	○	ー	ー	○	連携
64	婦人腫瘍科	○	○	○	ー	ー	○	連携
66	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	○	○	○	ー	ー	○	連携
68	皮膚腫瘍科	○	○	○	○	ー	○	基幹／連携
70	血液腫瘍科	○	○	○	ー	ー	○	連携＊2
72	造血幹細胞移植科	○	○	○	ー	ー	○	連携＊2
74	小児腫瘍科	○	○	○	○	ー	○	ー
76	歯科	ー	○	○	ー	ー	○	ー
78	緩和医療科	○	○	○	○	ー	○	連携＊2
80	精神腫瘍科	○	○	○	○	ー	○	連携
82	放射線診断科	○	○	○	ー	ー	○	基幹／連携
84	放射線治療科	○	○	○	○	ー	○	基幹／連携
86	病理診断科	○	○	○	ー	ー	○	基幹／連携
88	臨床検査科	ー	ー	ー	ー	ー	○	基幹
90	先端医療科	○	○	○	○	ー	○	連携＊2
92	臨床研究支援部門	○	○	○	ー	ー	○	ー
94	遺伝子診療部門	ー	ー	ー	ー	ー	○	ー
96	麻酔・集中治療科	ー	ー	ー	ー	ー	ー	連携
	小児腫瘍外科／総合内科	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー

＊1 外科専攻医の受け入れが可能です（外科総合コース所属となります）

＊2 内科専攻医の受け入れが可能です（内科総合コース所属となります）

＊連携大学院コース以外でも、連携大学院制度の利用は可能です。詳細はお問い合わせ下さい

外科総合コース

研修後の進路

	2021年度	2022年度	2023年度
国立がん研究センター（医員、研究員、Physician scientist 等）	0	0	0
大学病院	0	0	0
全国のがんセンター・全がん協加盟施設	0	0	0
市中病院	0	0	0
企業、海外留学等	1	0	0
その他	0	0	1
合計　※研修継続者、専攻医は除く	1	0	1

☞ 研修に関するお問い合わせ先

教育担当：

吉田 幸弘（呼吸器外科）
yukiyosh@ncc.go.jp

林　勉（胃外科）
tsuhayas@ncc.go.jp

塚本 俊輔（大腸外科）
shtsukam@ncc.go.jp

小熊 潤也（食道外科）
joguma@ncc.go.jp

伴　大輔（肝胆膵外科）
dban@ncc.go.jp

高山　伸（乳腺外科）
stakayam@ncc.go.jp

■プログラム

§ 推奨するコース

●レジデント3年コース

研修目的・内容	・外科全般の幅広い診療経験をつむこと、また、臨床試験による標準治療確定の過程を学ぶことができます。 ・専門医取得のための研修が可能です。（消化器外科専門医、呼吸器外科専門医、乳腺認定医・乳腺専門医、大腸肛門病学会専門医） ・国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journal での筆頭著者等の研究活動の機会も十分確保されています。 ※ 原則として日本外科学会教育研修プログラムに則った研修を行う
研修期間・ローテーション	重点を置く診療科を一つ選択する。 外科及び外科系を、３科以上各３か月以上ローテーションする。 1年目：原則として CCM を含め基礎系（病理、診断部など）をローテーションする。 2-3年目：外科及び外科系を基本とするローテーション研修を行う。 ※ そのうち一定期間の交流研修を認める ※ 病院の規定に基づき CCM・緩和医療研修を行う
各科の特色・手術件数など	呼吸器外科：レジデントはそれぞれ週3件の手術を担当医として受け持ち、豊富な手術経験を積むことが可能です。 胃外科：開腹・腹腔鏡ともに十分な経験が積めます。ロボット手術についても、第一助手としての経験が豊富に積めます。 大腸外科：開腹・腹腔鏡手術ともに十分な執刀経験が積め、ロボット手術手技も助手を通じて学びます。 食道外科：頸部操作の執刀および 1-2 例の腹腔鏡操作の執刀を目標とします。さらに胸腔鏡操作およびロボット手術の助手を通じて手技を学びます。 肝胆膵外科：肝胆膵領域の画像診断、周術期管理を経験し、肝胆膵外科手術の助手を通じて手技を学びます。 6か月間以上のローテーションでは術者も含めて経験を積みます。 乳腺外科：術者としてローテーション期間1単位（3か月間）で約 30 症例を執刀します。

●専攻医コース（連携施設型）

研修目的・内容	・日本外科学会専門医取得のための研修を行います。 ・呼吸器外科、胃外科、大腸外科、食道外科、肝胆膵外科、乳腺外科等の診療科で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とします。
研修期間・ローテーション	原則3か月から6か月 ※6か月を超える研修を希望する場合は要相談

対象者、研修期間、CCM・緩和医療研修、交流研修等　病院全体で定められた基準は16-17ページを参照

病理診断科

国立がん研究センター中央病院で病理診断のスペシャリストに！

診療科としての人材育成のポイント

病理診断科で全臓器の病理診断を経験することによって、病理専門医を取得し、高度な診断スキルの習得を目指します。希望する特定臓器における診断・研究の専門家を育成します。① 全臓器の病理診断を経験し、病理診断医としての高度なスキルを習得する。② 希望する臓器の専門家を目指し、特定臓器の診断・研究を継続的に行う。③ 臨床病理学的・分子病理学的研究を行い、学会発表・論文作成を行う。

当科の研修は、がん専門病院の特徴を活かした、次のものとなります。① 3か月単位で病理診断科内の全臓器をローテーションし、病理診断を行います。豊富な症例数と多数の病理指導医のもと、稀な腫瘍を含めて多数例の診断を経験することができます。② 各臓器の病理専門家が揃っており、特定臓器の専門家を目指すことが可能です。③ 分子病理学的研究手法の指導を受け、研究者としてのスキルを習得できます。④ 院内の多数の病理ー臨床カンファレンスをはじめ、国内学会発表・国際学会発表・英語論文作成などの学術活動を行います。

研修内容（全般）

各臓器ローテート期間には、各臓器担当病理医の指導のもとで切り出しを行い、検鏡・ディスカッションを経て病理診断報告書を作成します。臨床医との術前術後カンファレンスにも参加します。在籍期間を通して、術中迅速診断、生検診断、剖検に参加します。術中迅速診断は年間約1500件と極めて多く、病理専門医試験受験資格取得のための症例経験数を容易にクリアすることができます。また剖検については、施設内外での剖検研修により必要経験数の達成が可能となっています。研究や症例報告など国内外の学会発表や英文論文の執筆も活発に行われており、研修中に指導医のきめ細やかなサポートのもとで学術活動を実践することも可能です。連携大学院制度を活用した学位取得も可能です。

専攻医コース（基幹型）（3年）

1年目：NCC での病理研修
2 年目：連携病院での病理研修
3 年目：NCC での病理研修の続き

and/or

取得可能

病理専門医
細胞診専門医

レジデント3年・2年コース

1-3 を希望に応じて研究する。
1. がん病理診断技術の向上
2. 特定臓器の専門病理医を目指す。
3. 分子病理学的研究を行う。

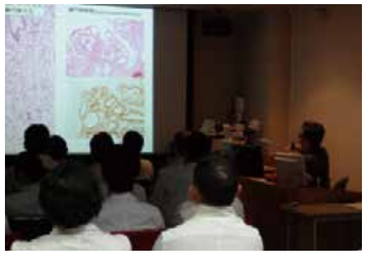
連携大学院制度を活用した学位取得

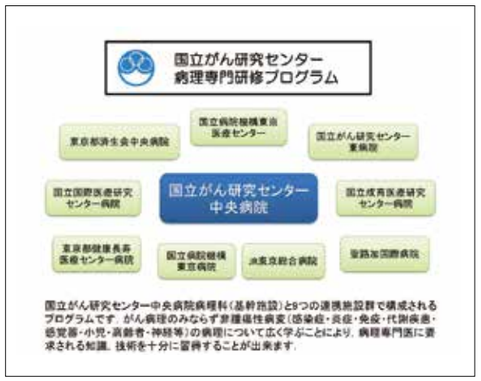
2023年の検体数

生検18,992件（うち術中迅速1,735件）、手術4,605件、細胞診11,011件、剖検15件

2024年レジデント在籍数

専攻医基幹型1名、レジデント3年コース4名、
レジデント2年コース1名、レジデント短期コース1名





＜レジデントの最近の卒後進路＞

当センター、都立駒込病院、国立国際医療研究センター、防衛医科大学、中京病院、東京慈恵会医科大学、筑波大学、東京医療センター、札幌医科大学、広島大学、兵庫県立加古川病院、北海道大学、福岡大学、新潟大学、新潟市民病院、東京大学、JR東京総合病院、済生会川口総合病院、聖路加国際病院、埼玉県立がんセンター 他

☞ 研修に関するお問い合わせ先
教育担当：吉田 正行
masayosh@ncc.go.jp

基幹型専攻医を含め、制度が複雑であり、希望者は研修内容について申請前にご相談ください。

■プログラム

§ 推奨するコース

●レジデント3年コース

研修目的・内容	病理診断スキルの向上（細胞診専門医の取得を含む）、病理学的研究能力の向上を目的とする。 特定臓器の専門病理医を目指す。 3年間の院内研修（関連施設での研修も可能）で、全臓器の総合的な病理診断経験を積む。
研修期間・ローテーション	3年間：腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで全臓器の病理診断に携わる。特定臓器の病理診断を集中的に行い、より専門性を高めることも可能。臨床病理学的研究に携わることも可能。

●レジデント2年コース

研修目的・内容	病理診断スキルの向上（細胞診専門医の取得を含む）、病理学的研究能力の向上を目的とする。 特定臓器の専門病理医を目指す。 2年間の院内研修（関連施設での研修も可能）で、全臓器の総合的な病理診断経験を積む。
研修期間・ローテーション	2年間：腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで全臓器の病理診断に携わる。特定臓器の病理診断を集中的に行い、より専門性を高めることも可能。臨床病理学的研究に携わることも可能。

●専攻医コース（基幹施設型）

研修目的・内容	当科を基幹施設とした研修施設群で病理診断の研修を行い、病理専門医の取得を目指す。（オプション：細胞診専門医の取得） 約2年間の院内研修、約1年間の連携施設での研修を通じて、全臓器の総合的な病理診断経験を積む。
研修期間・ローテーション	1年目および3年目：原則として院内研修。腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで全臓器の病理診断に携わる。 2年目：原則として連携施設での研修。非腫瘍性疾患等の研修も行う。

§ 副次的なコース

●がん専門修練医コース

研修目的・内容	特定臓器の病理診断を集中的に行い、より専門性を高める。 臨床病理学的研究に携わり、研究能力の向上、成果の発信を目指す。 レジデントや専攻医の教育に関わる。
研修期間・ローテーション	2年間：希望する専門臓器を中心として病理診断に携わり、専門性を高める。専門領域の臨床病理学的研究を実施する。

●専攻医コース（連携施設型）

研修目的・内容	病理専門研修プログラムに則り、短期間の研修で基本的ながんの診療経験および希望臓器の病理診断経験を積むことを目標とする。
研修期間・ローテーション	原則3か月から6か月：腫瘍診断を主体として、病理診断に携わる。 6か月を超える研修を希望する場合は要相談。

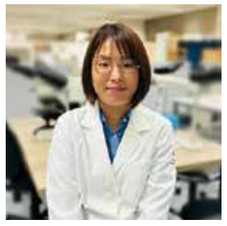
●レジデント短期コース

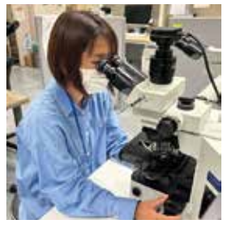
研修目的・内容	希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方を対象として目的に応じた病理研修を行う。 大学病理部からの派遣として国がんの病理を見てみたいなど、有給短期研修を望む人のためのコースです。
研修期間・ローテーション	6か月～1年6か月：病理研修。

対象者、研修期間、CCM・緩和医療研修、交流研修等　病院全体で定められた基準は16-17ページを参照

message voice

専攻医からのメッセージ





専攻医（基幹施設型）

杉谷　鮎美

初期研修:市中病院

2023年より国立がん研究センター中央病院
専攻医（基幹施設型）病理診断科

1. 中央病院を選んだ理由

大学の医局に属さずに、病理専門研修プログラムを組んでいる基幹施設は限られています。中でも、中央病院は症例数が多く、希少な疾患についても経験することができ、レジデントや指導医も多いことを理由に研修先として希望しました。

2. 研修プログラムの特徴、やりがい

中央病院の病理診断科は消化管や婦人科など、臓器ごとに担当が分けられています。1、3年目は中央病院で3か月ごとに各臓器をローテーションして、2年間ですべての臓器を学べます。臓器別に分かれてそれぞれ集中的に研修できる施設はあまりなく、当院に特徴的かと思います。2年目は3～6か月ごとに3～4つの連携施設で研修を行います。連携施設での研修で、当院ではほとんど見る機会のない非腫瘍性疾患についても十分に学ぶことができます。

3. 院内の雰囲気、研修環境

スタッフの数だけではなく、レジデント等の若手医師の数も比較的多く、気軽に声がかけられてなんでも相談しやすい環境です。また、臨床科から病理をローテーションされる先生も多くいて、臨床的な観点から症例について聞くこともできたりします。毎日スタッフの先生方と検鏡する時間もあり、疑問はすぐに聞くことができますし、教育用の標本を見せていただくこともあり、たくさんの症例を経験することができます。

4. 中央病院だから経験したこと、できること

一般病院とは異なり、臓器ごとに専門の先生がいらっしゃいます。他院からの紹介も多く、骨軟部腫瘍など、希少な疾患を経験できる機会も多いと思います。生検検体、手術検体ともに症例数は豊富で、ローテーション中の臓器の検体はほとんどすべて切り出しから診断までを担当することができます。免疫染色の抗体の種類も豊富で、FISH も自施設で行えるため診断を追及することができます。

5. 研修修了後の進路

過去に当プログラムで研修されていた先生方は、レジデントとして当院での研修を継続し、連携大学院に進む方や、市中病院に就職する方もいました。医局に属していないので、自分で自由に研修後の進路を決めることができます。

6. 休日の過ごし方・生活環境

休日に決まった業務はないので基本的に自由に過ごすことができますが、稀に剖検が入ることがあります。現在は、レジデントの先生方と分担して剖検に入る日を決めています。専攻医も宿舎を利用することができ、今まで半分程度の方が利用していました。

7. これはイチオシ！

臓器ごとにローテーションできるので、3か月間集中的にその臓器について勉強することができるところです。それぞれの臓器を専門にされている先生から指導を受けることができるので大変勉強になります。また、レジデントの先生方も温和な方々でとても話しやすい環境にあるので、いつも気軽に相談させていただけるところもとても魅力的です。

8. 成長を実感したできごと

1年目に当院で多くの標本に追われ、2年目に連携施設で全臓器の診断に携わり、少しは業務にも慣れ成長を実感したりもしましたが、3年目に再び当院に戻ってきてまだまだ知らないことばかりだということを痛感しています。

9. 入職前のイメージとのギャップ

検体数が多く、日々の業務に忙殺されてしまうのではないかという心配もありましたが、勉強して復習する余裕もあり、スタッフの先生方にも相談しやすいので、1つ1つの疾患の理解を深めながら診断業務にあたることができています。

10. みなさんへのメッセージ

病理の専攻医プログラムでは、大学の医局に属する方が多く、初期研修修了後に病理研修を始める最初の施設として当院のような専門病院を選択するのは少し特殊かもしれませんが、私自身はとても良い選択だったと思います。科の雰囲気も良く、業務に関することはもちろん、何でも話しやすい環境です。当院基幹型の専攻医だけではなく、他施設の連携施設型や、レジデントとしてなど、当院の病理診断科で研修する選択肢は複数あります。興味のある先生はぜひ見学にいらしてください。

11. 1日のスケジュール例

8:30	検体の処理と標本の下見
9:30	指導医と検鏡
10:30	診断、免疫染色のオーダーなど
12:00	昼休み
13:00	切り出し
14:00	診断
18:00	帰宅

がん専門修練医募集要項

❶ 応募資格

原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師
（1）国立がん研究センターレジデント研修を修了した者、または修了見込みの者
（2）各コースに関連するサブスペシャルティ領域専門医等取得済みまたは取得見込みの者
（3）上記と同等の能力を有する者
注：詳細は各研修課程のページを参照すること
注：がん専門修練医経験者の再応募は原則不可とする。
注：厚生労働省の開催指針に従った「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」を修了している者が望ましい。未受講者については採用後、当センター等で実施する緩和ケア研修会を受講することとする。

❷ 募集人数（予定）

中央病院 20 名程度

❸ 出願手続

（1）出願書類を下記住所までご郵送ください

〒 104-0045 東京都中央区築地 5 － 1 － 1
国立研究開発法人 国立がん研究センター　中央病院人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

（2）締切日（必着）

2024年9月12日（木）

（3）必要書類

ア . 願書（所定様式・A3 判）
イ . 上司または指導者の推薦状（所定様式）
ウ . 医師免許証の写し（A4 判に縮小）
エ . 大学（医学課程）卒業証書の写し（A4 判に縮小）または卒業証明書
オ . 在職証明書（臨床医学系大学院の在籍証明書も可。提出の3か月以内に発行されたもの）
カ . 業績リスト（英文かつfirst authorの論文のみ・in pressも可）（様式自由・A4）
キ . 手術経験記載表（所定様式）
（外科・外科系部門の志望者のみ提出。一般外科術式の経験がない場合は空欄に専門分野の経験術式名・経験数を記入すること）
ク .「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」修了証書の写し（修了者のみ）

❹ 選考方法

書類審査および面接試験
※応募者多数の場合には書類にて一次選考を行います
※一次選考の結果および面接試験の案内は Email 等により通知いたします

❺ 選考日

2024年10月4日（金）

❻ 選考会場

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 管理棟 会議室
東京都中央区築地 5 － 1 － 1

❼ 合格発表

選考日のおおむね 1 か月後
※結果は郵送にて通知いたします。電話でのお問い合わせには対応いたしませんのでご了承ください。

❽ 研修期間

2 年間（2025年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日）

❾ 勤務

研修課程に基づき、指導医のもとで高度な知識と技術の習得、開発に努め、患者の診察に従事する（1 年目には宿日直勤務、 2 年目には研究を含む）。

❿ 処遇等　※変更となる可能性もあります

（1）身分　　常勤職員
（2）勤務条件　週38時間45分（基本勤務：8 時 30 分から 17 時 15 分）
※1 年目には原則宿日直勤務あり
（3）給与　　国立研究開発法人国立がん研究センター修練医等給与規程に基づく
【基本給月額（見込み）】 1 年目 440,200 円／ 2 年目 459,900 円
（4）諸手当　　業績手当 (賞与)、超過勤務手当、住居手当、通勤手当、その他手当
※ 各種手当は、状況により付与
（5）健康保険　厚生労働省第二共済組合
年金等　　厚生年金、雇用保険
（6）宿舎　　単身者用の宿舎（有料）空室時利用可能
（7）修了　　所定の研修修了時に修了証書を交付

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒 104-0045 東京都中央区築地 5 － 1 － 1
TEL:03-3542-2511（内線 2249・2138）
E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください　　https://www.ncc.go.jp/
国立がん研究センターホームページ＞（中央病院・東病院）＞採用情報＞レジデント募集情報

レジデント（3年コース・2年コース・連携大学院コース・高度技能医コース）募集要項

❶ 応募資格

原則として以下の全ての条件を満たした医師
（1）採用時に医師免許取得後3年目以降の者
（2）基本領域専門医または認定医等取得済みもしくは取得見込みの者
歯科部門については採用時に歯科医師免許取得後3年目以降の者

注：詳細は各研修課程のページを参照すること
注：がん専門修練医・レジデント（短期コースを除く）経験者の再応募は原則不可とする。
注：厚生労働省の開催指針に従った「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」を修了している者が望ましい。未受講者については採用後、当センター等で実施する緩和ケア研修会を受講することとする。

❷ 募集人数（予定）

中央病院 27名程度（基幹施設型専攻医を含む）

❸ 出願手続

（1）出願書類を下記住所までご郵送ください

〒104－0045　東京都中央区築地５－１－１
国立研究開発法人 国立がん研究センター　中央病院人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

（2）締切日（必着）

2024年9月12日（木）

（3）必要書類

ア．願書（所定様式・A3判）
イ．上司または指導者の推薦状（所定様式）
ウ．医師免許証の写し（A4判に縮小）（歯科部門については歯科医師免許証の写し）
エ．大学（医学課程、歯科部門は歯学課程）卒業証書の写し（A4判に縮小）または卒業証明書
オ．在職証明書（臨床医学系大学院の在籍証明書も可。提出の3か月以内に発行されたもの）
カ．手術経験記載表（所定様式）
（外科・外科系部門の志望者のみ提出。一般外科術式の経験がない場合は空欄に専門分野の経験術式名・経験数を記入すること）
キ．「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」修了証書の写し（修了者のみ）

❹ 選考方法

書類審査、筆記試験および面接試験（応募状況により一部省略有）
※応募者多数の場合には書類にて一次選考を行います
※一次選考の結果および試験の案内は Email 等により通知いたします

❺ 選考日

2024年10月2日（水）
注：２年コース応募者について、４月以外の研修開始を希望する場合には調整を行う

❻ 選考会場

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 管理棟 会議室
東京都中央区築地５－１－１

❼ 合格発表

選考日のおおむね１か月後
※結果は郵送にて通知いたします。電話でのお問い合わせには対応いたしませんのでご了承ください。

❽ 研修期間

３年間（2025年４月１日～2028年３月31日）または２年間（基本として2025年４月１日～2027年３月31日）
注：連携大学院コース・高度技能医コースについては上記期間修了後に続けてがん専門修練医の研修を行う（選考あり）

❾ 勤務

研修課程に基づき、指導医のもとで幅広い知識と技術の習得、開発に努め、患者の診察に従事する（宿日直勤務を含む）。

❿ 処遇等　※変更となる可能性もあります

（1）身分　　常勤職員
（2）勤務条件　週 38 時間 45 分（基本勤務：8 時 30 分から 17 時 15 分）
※原則宿日直勤務あり
※ CCM 研修期間は夜間勤務・休日勤務あり (勤務表による)
（3）給与　　国立研究開発法人国立がん研究センター修練医等給与規程に基づく
【基本給月額 (見込み)】 1年目 362,300円／2年目 390,500円／3年目 410,200円
（4）諸手当　　業績手当 (賞与)、超過勤務手当、住居手当、通勤手当、その他手当
※ 各種手当は、状況により付与
（5）健康保険　厚生労働省第二共済組合
年金等　　厚生年金、雇用保険
（6）宿舎　　単身者用の宿舎（有料）空室時利用可能
（7）修了　　所定の研修修了時に修了証書を交付

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地５－１－１
TEL:03-3542-2511（内線 2249・2138）
E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください　https://www.ncc.go.jp/
国立がん研究センターホームページ＞（中央病院・東病院）＞採用情報＞レジデント募集情報

レジデント（短期コース）募集要項

❶ 応募資格

原則として基本領域専門医または認定医等取得済みもしくは取得見込みの医師
歯科部門については採用時に歯科医師免許取得後２年目以降の者

注：詳細は各研修課程のページを参照すること
注：がん専門修練医・レジデント（短期コースを除く）経験者の再応募は原則不可とする。
　　レジデント（短期コース）経験者は通算1年6か月以内であれば再応募可とする。
注：厚生労働省の開催指針に従った「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」を修了している者が望ましい。未受講者については 採用後、当センター等で実施する緩和ケア研修会を受講することとする。

❷ 募集人数

中央病院　若干名
＊前年度レジデント短期コース採用実績　中央病院５名

❸ 出願手続

出願書類郵送前に、氏名、出身大学、医師免許取得年、現所属機関、希望コース・研修開始月・研修期間を専門教育企画係までメールにてご連絡ください。（メール受付締切日は願書締切日の１週間前となります）
原則として研修者数に余裕がある場合の採用となるため、状況により受け付けできないこともございます。あらかじめご了承ください。

（1）出願書類を下記住所までご郵送ください

〒104－0045　東京都中央区築地５－１－１
国立研究開発法人 国立がん研究センター　中央病院人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

（2）締切日　第1回：2024年10月15日（火）
　　第2回：2024年12月25日（水）
　　以降未定

（3）必要書類

ア．願書（所定様式・A3 判）
イ．上司または指導者の推薦状（所定様式）
ウ．医師免許証の写し（A4 判に縮小）（歯科部門は歯科医師免許証の写し）
エ．大学（医学課程、歯科部門は歯学課程）卒業証書の写し（A4 判に縮小）または卒業証明書
オ．在職証明書（臨床医学系大学院の在籍証明書も可。提出の3か月以内に発行されたもの）
カ．手術経験記載表（所定様式）
　（外科・外科系部門の志望者のみ提出。一般外科術式の経験がない場合は空欄に専門分野の経験術式名・経験数を記入すること）
キ．「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」修了証書の写し（修了者のみ）

❹ 選考方法

書類審査および面接試験

❺ 選考日

第1回：2024年10月29日（火）
第2回：2025年1月16日（木）
以降未定（状況により実施）

❻ 選考会場

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 管理棟 会議室
東京都中央区築地５－１－１

❼ 合格発表

選考日のおおむね１か月後
※結果は郵送にて通知いたします。電話でのお問い合わせには対応いたしませんのでご了承ください。

❽ 研修期間

研修コースにより異なる。（最短6か月、最長1年6か月）
注：通算1年6か月を超える研修延長は不可とする

❾ 勤務

研修課程に基づき、指導医のもとで幅広い知識と技術の習得、開発に努め、患者の診療に従事する（宿日直勤務を含む）。

❿ 処遇等　※変更となる可能性もあります

（1）身分　　常勤職員
（2）勤務条件　週 38 時間 45 分（基本勤務：8時 30分から 17 時 15分）
　　※原則宿日直勤務あり
　　※ CCM 研修期間は夜間勤務・休日勤務あり（勤務表による）
（3）給与　　国立研究開発法人国立がん研究センター修練医等給与規程に基づく
　　【基本給月額（見込み）】362,300円　※任期1年超の場合、2年目 390,500円
（4）諸手当　超過勤務手当、通勤手当、その他手当
　　※ 各種手当は、状況により付与
（5）健康保険　厚生労働省第二共済組合
　　年金等　厚生年金、雇用保険
（6）宿舎　　単身者用の宿舎（有料）空室時利用可能
（7）修了　　所定の研修修了時に修了証書を交付

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地５－１－１
TEL:03-3542-2511（内線 2249・2138）
E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください　https://www.ncc.go.jp/
国立がん研究センターホームページ＞（中央病院・東病院）＞採用情報＞レジデント募集情報

専攻医（基幹施設型・連携施設型）募集要項

❶ 応募資格

●専攻医（基幹施設型）
以下の全ての条件を満たした医師
（1）採用時に医師免許取得後3年目以降の者
（2）専門医制度において中央病院を基幹施設とする基本領域専門研修プログラムを選択した専攻医

●専攻医（連携施設型）
以下の全ての条件を満たした医師
（1）採用時に医師免許取得後３年目以降の者
（2）専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設の基本領域専門研修プログラムで研修中の専攻医

注：詳細は各研修課程のページを参照すること
注：厚生労働省の開催指針に従った「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」を修了している者が望ましい。未受講者については採用後、当センター等で実施する緩和ケア研修会を受講することとする。

❷ 募集人数

中央病院　若干名

❸ 出願手続

●専攻医（基幹施設型）

（1）出願書類を下記住所までご郵送ください

〒104－0045　東京都中央区築地５－１－１
国立研究開発法人 国立がん研究センター　中央病院人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

（2）締切日（必着）　2024年9月12日（木）

（3）必要書類

ア．願書（所定様式・A3 判）
イ．上司または指導者の推薦状（所定様式）
ウ．医師免許証の写し（A4 判に縮小）（歯科部門は歯科医師免許証の写し）
エ．大学（医学課程、歯科部門は歯学課程）卒業証書の写し（A4 判に縮小）または卒業証明書
オ．在職証明書（臨床医学系大学院の在籍証明書も可。提出の3か月以内に発行されたもの）
カ．手術経験記載表（所定様式）
（外科・外科系部門の志望者のみ提出。一般外科術式の経験がない場合は空欄に専門分野の経験術式名・経験数を記入すること）
キ．「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」修了証書の写し（修了者のみ）

●専攻医（連携施設型）
研修開始の３か月前までに基幹施設、専攻領域、専門研修開始年、希望時期・期間をメールにてご連絡ください。
原則として研修者数に余裕がある場合の採用となるため、状況により受け付けできないこともございます。あらかじめご了承ください。
必要書類は上記のうちア・ウ・エ・カ・キとなります。

❹ 選考方法

●専攻医（基幹施設型）
書類審査、筆記試験および面接試験（応募状況により一部省略有）
※応募者多数の場合には書類にて一次選考を行います
※一次選考の結果および試験の案内は Email 等により通知いたします

●専攻医（連携施設型）　面談
注：面談の日程は調整後、Email 等により通知いたします

❺ 選考日

●専攻医（基幹施設型）　2024年10月2日（水）
●専攻医（連携施設型）　随時

❻ 選考会場

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 管理棟 会議室
東京都中央区築地５－１－１

❼ 合格発表

選考日のおおむね１か月後
※結果は郵送にて通知いたします。電話でのお問い合わせには対応いたしませんのでご了承ください。

❽ 研修期間

●専攻医（基幹施設型）
３年間（2025年４月1日～ 2028年3月31日）を基本とし、各専門研修プログラムに則り定める
●専攻医（連携施設型）
原則3か月から6か月とする
※6か月を超える研修を希望する場合は要相談（希望の研修期間に応じて採用試験を実施）注：各学会の定める規定も考慮し調整を行う

❾ 勤務

研修課程に基づき、指導医のもとで幅広い知識と技術の習得、開発に努め、患者の診療に従事する（宿日直勤務を含む）。

❿ 処遇等　※変更となる可能性もあります

（1）身分　　非常勤職員（医師）
（2）勤務条件　週30時間（基本勤務：８時30分から15時30分）
※研修期間・コースにより宿日直勤務あり
（3）給与　　国立研究開発法人国立がん研究センター非常勤医師及び研究員給与規程に基づく
【給与支給額（見込み）】350,000円／月額 ※各種手当は除く
（4）諸手当　　業績手当（賞与）、超過勤務手当、通勤手当、その他手当　※各種手当は、状況により付与
（5）健康保険　厚生労働省第二共済組合
年金等　　厚生年金、雇用保険
（6）宿舎　　単身者用の宿舎（有料）空室時利用可能
（7）修了　　所定の研修修了時に修了証書を交付

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地５－１－１
TEL:03-3542-2511（内線 2249・2138）
E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください　https://www.ncc.go.jp/
国立がん研究センターホームページ＞（中央病院・東病院）＞採用情報＞レジデント募集情報

採用試験日程

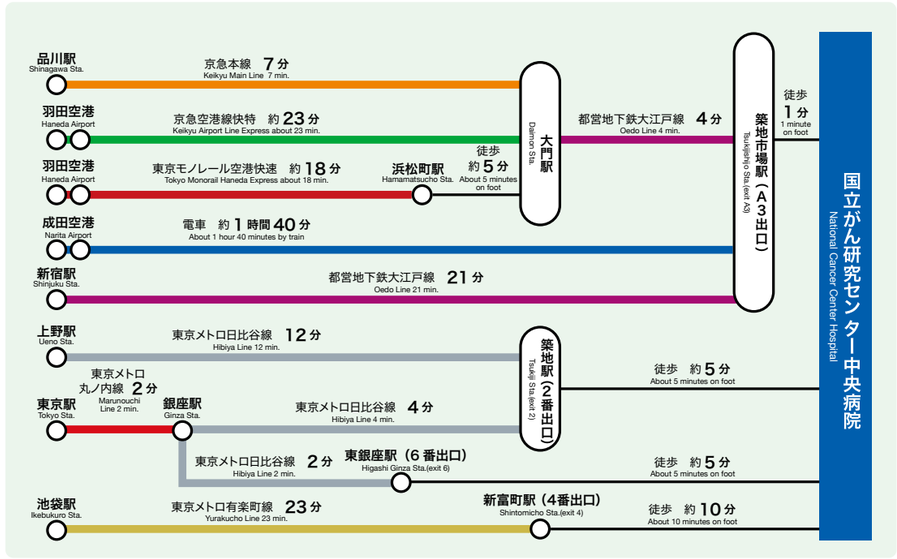
2025年度　中央病院
がん専門修練医・レジデント・専攻医
採用試験日程

試験の種類	出願書類締切日	選考日
がん専門修練医	2024年9月12日（木）	2024年10月4日（金）
レジデント （3年コース・2年コース・連携大学院コース・高度技能医コース） 専攻医（基幹施設型）		2024年10月2日（水）
レジデント（短期コース）	第1回：2024年10月15日（火） 第2回：2024年12月25日（水） 以降未定	第1回：2024年10月29日（火） 第2回：2025年　1月16日（木） 以降未定（状況により実施）

＊ 詳しくは募集要項をご覧ください。

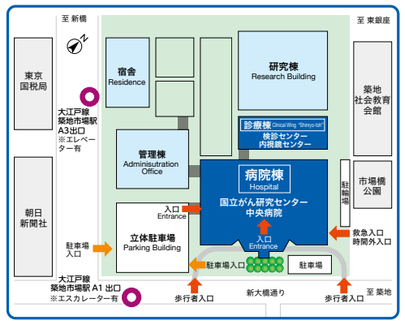
交通案内

主要交通機関 Main Transportation



Map

建物配置図 Tsukiji Campus



●バス
・市01（都営）国立がん研究センター前バス停から徒歩3分
・業10/都03/都04/都05-1/都05-2（都営）築地三丁目バス停から徒歩5分
●駐車場：394台（30分まで無料）

● Toei Bus
・3minutes walk from the bus stop in front of National Cancer Centers
・5minutes walk from Tsukiji San-chome bus stop
● Parking
394unts（Up to 30 minutes free）

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 人材育成センター 専門教育企画室 専門教育企画係

〒104-0045 東京都中央区築地5－1－1
TEL：03-3542-2511（内線 2249・2138）
E-mail：kyoiku-resi@ncc.go.jp

研修内容等の最新情報はホームページをご確認ください　https://www.ncc.go.jp/
国立がん研究センターホームページ＞（中央病院・東病院）＞採用情報＞レジデント募集情報

国立がん研究センター 中央病院
National Cancer Center Hospital

https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/